いながわ特派員報告

猪名川町に生息する外来生物

皆さんは「外来生物」のことを知っていますか。アライグマ・ヌートリア・クローバー・セイヨウタンポポ…これらの動植物は外来生物と呼ばれるもので、もともとその地域にはいなかったのに、人間の活動によって外国から入ってきた生物のことです。

今回は、町内に生息する外来生物を調べて報告します。

外来生物の影響

現在、国内には約１９０種もの外来生物が定着しており、県内には少なくとも約３００種がいると言われています。

外来生物は、ペットとして人間が持ち込んだり、貿易の船などによって運ばれ、日本に入ってきました。

外来生物が侵入すると、元々その場所にいた在来生物との間で餌や生活の場の確保のために競争が起こり、本来の生態系が乱されることがあります。

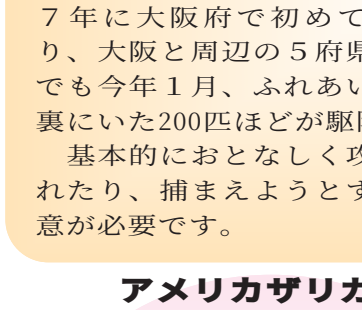
「外来生物法」では、生態系や農林水産業への影響が大きい生物を「特定外来生物」として指定していますが、県でも生態系を保護するため、平成25年までに外来種の「ブラックリスト」を策定する予定です。

アライグマ

体重6～10kg　体長40～60cm

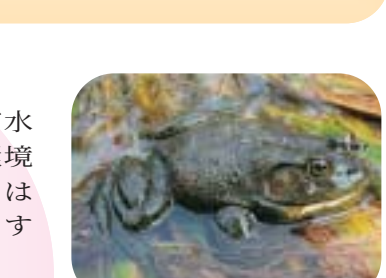
テレビアニメでその可愛らしさが有名なアライグマは、北アメリカからペットとして持ち込まれましたが、逃げたり捨てられたものが野生化しています。日本には天敵がいないため、ほぼ全国的に広がっています。現在兵庫県では、イノシシ、ニホンジカに次いで３番目に大きな農業被害を出す動物となっています。

主な被害農作物は、イチゴ・スイカ・トウモロコシで、町内では、平成20年度に報告されているだけでも88頭捕獲されました。



シロツメクサ

原産地はヨーロッパで、クローバーとも呼ばれています。江戸時代に、外国から輸入されたガラス製品などの緩衝材として、乾燥させた花を用い、その中の種子が発芽し広がったと言われています。



セイヨウタンポポ

原産地はヨーロッパで、在来種のタンポポとの見分け方は、ガクに似た部分（総包片）が開花時に反り返るのがセイヨウタンポポで、反り返らないのが在来種のタンポポです。

セアカゴケグモ

体長（脚を除く）メス1cm　オス3～5mm

オーストラリア原産で、熱帯地方を中心に分布する毒を持つクモで、輸入貨物について日本に入ったと言われています。

国内では沖縄県以外では発見されていませんでしたが、平成７年に大阪府で初めて見つかり、大阪と周辺の５府県で定着が確認されています。町内でも今年１月、ふれあい公園で発見され、排水路のフタの裏にいた200匹ほどが駆除されました。

基本的におとなしく攻撃的ではありませんが、素手で触れたり、捕まえようとすると、かまれることがあるので注意が必要です。

ヌートリア　体重7～10kg　体長50～60ｃｍ

ヌートリアは南アメリカ原産のネズミの仲間で、前歯４本がオレンジ色なのが特徴です。常に水辺におり、川の土手などに直径20～30cm、長さ１～６ｍの巣穴を掘り、周辺の水草をはじめとした植物・野菜などを好んで食べます。第２次世界大戦前後に毛皮をとるために輸入、養殖されたものが、各地で逃げ出すなど、西日本を中心に野生化しています。

アメリカザリガニ

体長8～12cm

川やため池・水田・用水路など水深が浅くて流れのゆるい泥底の環境に生息します。体の色は、はじめは茶褐色で、体長６cm程度に成長すると濃い赤褐色に変わります。

昭和初期に食用のウシガエルの飼料として、アメリカから輸入されたのが最初と言われています。

雑食性で、希少な水草や水生生物への影響が懸念されています。

ウシガエル

体長（脚を除く）5～16cm

大正７年、食用としてアメリカから輸入されました。日本・アメリカでも最大のカエルで、ウシガエルという和名は、牛のような大きな声で「ブォー、ブォー」と鳴くことに由来しています。肉食性で、他のカエルや昆虫・魚類などに影響を及ぼしています。

ミシシッピアカミミガメ

甲羅の長さ　最大28cm

甲羅が真っ黒で、目の後ろの赤いまだら模様が特徴の、各地で普通に見られるカメです。昭和30年代に子ガメが「ミドリガメ」の俗称でペットとして輸入され、小さくて緑色のかわいい姿で人気がでました。しかし、成長して大きくなると、気性も荒くなるため、捨てられたり逃げ出したりしたものが野生化しています。

ブラックバス・ブルーギル

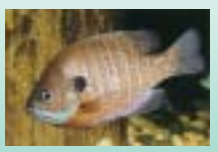
▲ブラックバス

体長　ブラックバス30～50cm　ブルーギル20～30cm

ブラックバスは俗称で、和名はオオクチバスと言い、ブルーギルとともに北アメリカ原産の淡水魚。

繁殖力・生命力・捕食力が強く、在来魚類や生態系に与える影響が問題となっています。

釣り上げたブラックバスやブルーギルを他の川や池に放流することは禁止されています。



▲ブルーギル

後編記集

今回は、「県立人と自然の博物館」と、「県森林動物研究センター」にご協力をいただきました。

取り上げた外来種はごく一部ですが、これが外来種なのかと驚くものもありました。自分達の暮らしの身近にいる生き物を知ることや、人や物のグローバルな活動が自然界に与える影響を学ぶことは、地球環境について考えるきっかけになるのではないでしょうか。

【いながわ特派員】

R100 PRINTED WITH SOY INK　本紙は古紙配合率100%の紙に、植物性大豆油インキで印刷しています。10,900部作成し、一部当たりの単価は28.9円です。